

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
安全・安心確保に資する等の社会貢献活動並びに公共事業全般に係る広報活動・調査研究の部
(安全確保・広報・調査研究の部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	国土交通省 北陸地方整備局 北陸技術事務所
ふ り が な	「でいーえつくすたいけん」をつうじたいんふらでいーえつくすいしんへのとりくみ
1. 取組(活動)の名称	「DX体験」を通じたインフラDX推進への取り組み
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和 6年 3月 27日 ～ 令和8年 3月 31日
3. 事業費(調査費等)	5百万円
4. キーワード	人材育成、インフラDX、担い手確保、広報戦略、働き方改革

5. 公共事業全般に関する取組の分類(下記3つの③のうち、いずれかに○印)			
取組の分類 :該当に○印	③-1 安全・安心分野	③-2 広報活動分野	③-3 調査研究分野
アピールする 1)「手段」	() () () ()	(d)出張 DX ルーム (f)DX体験 (g)オンライン受付、運営マニ アル	() () () ()
アピールする 2)「秀でた 成果」	() () () ()	(a)公共事業全般に対する理 解・信頼の向上 (e)後継技術者の育成 () ()	() () () ()

6. 事業概要
北陸インフラDX人材育成センターは、北陸地方の建設業界におけるインフラDXの推進と、それを担う人材の育成を目的として令和6年3月に新潟市西区の北陸技術事務所に開所した。北陸技術事務所では、施設に設けられた「DXルーム」を広く一般に開放した「DX体験」を運営している。
7. 特にアピールしたい点
「DX体験」を効果的かつ効率良く運営するため、出張 DX ルーム開催、高校生向けDX体験と災害対策機械見学のセット開催、オンライン受付システム導入、運営マニュアル等作成、などの新しい試みに取り組んだ。 これらにより、来場者の公共事業への理解・信頼の向上につながるとともに、訪れた学生には建設業界で働く意義を感じてもらえ、担い手確保の課題に対し大きく貢献した。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



北陸インフラ DX 人材育成センター



屋外実習エリア



研修ルーム

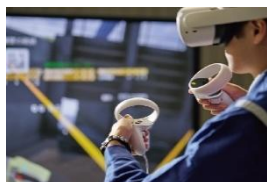


DX ルーム

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

1. 「DX体験」の内容

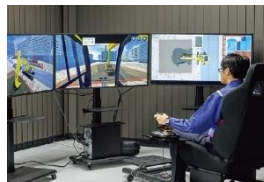
「DX体験」のメニューは、一般の方に慣れ親しんでいただけるよう、わかりやすくなじみやすい技術に加え、遠隔操縦式バックホウ実演見学、高校生向け3D モデル操作体験(CIM 体験)などを導入している。



VR 体験



UAV シミュレータ



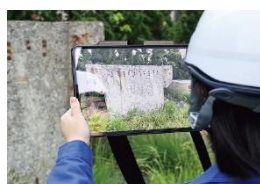
バックホウシミュレータ



遠隔臨場体験



除雪トラックシミュレータ



3次元測量体験



遠隔操縦式バックホウ
実演見学



CIM 体験

(出張 DX・高校生等向け)

2. 出張DXルームの開催

北陸地方整備局管内は東西に広く、北陸インフラDX人材育成センターがある北陸技術事務所は東部である新潟県に設置されている。そのため、富山県、石川県の関係者にとっては来場し難い状況にあった。こうした地理的な課題を踏まえ、地域の要望に応える形で「出張DXルーム」を企画・開催した。

「出張DXルーム」は、大部分の DX 体験機材を移設、期間限定で「DX体験」を開催するものであり、令和6年12月には富山市内で「出張DXルーム in 富山」を3日間開催し113名が参加、令和7年7月には金沢市内で「出張DXルーム in 金沢」を3日間開催し、170名に参加をいただいた。

これら「出張DXルーム」には、行政機関、民間企業などインフラ分野に関わる方だけでなく高校生も含め多く方に参加いただき、好評を得るとともに北陸の地理的制約を克服した運営の成功事例となった



出張DXルーム in 富山



出張DXルーム in 金沢

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、PIの方法 等)〕

3. 他イベントへの出張DXルーム出展

「出張Dルーム」の取り組みとして、他イベントへの出展を行った。北陸地方整備局が地域住民に向けて開催している「見学デー」への出張開催、新技術・新工法を一堂に集めた技術情報の交流の場である「けんせつフェア」などをはじめとして、多数のイベントに出展し、幅広い層へのインフラDX普及に努めた。



見学デー(VR体験)



けんせつフェア北陸 2025in新潟(DX体験ブース)



4. 高校生向けのDX体験・災害対策機械見学を開催

建設業界では担い手不足が深刻な課題となっているなか、将来を担う若い世代に建設業への関心を持ってもらうことを目的として、高校生向けにDX体験会を開催した。このイベントでは、DX体験に災害対策用機械の見学も組み合わせ、「建設業の防災への貢献」や「建設業で働く意義」などを感じてもらえる内容とした。令和6年度は2校70名の参加、令和7年度は予定も含め4校約250名程度の参加が見込まれており、学生、教師の方々から高評価を得られた。



VR体験



CIM体験



災害対策機械見学

5. オンライン受付システムの導入

「DX体験」の参加受付は、利便性の向上と事務処理の効率化を目的として、事務所ホームページ内に専用のオンライン受付システムを導入した。

このシステムは、利用者がホテルの宿泊予約を行うような感覚で、参加人数などの必要事項を画面上に入力し、簡単に申し込み手続きを完了できるよう設計されている。

入力内容は自動的に受付担当者宛にメールで送信され、即時に情報が共有される仕組みとなっているため、手続きの遅延や入力ミスのリスクも低減された。また、利用者にとっても24時間いつでも都合のよいタイミングで申し込みができるため、利便性が大きく向上した。

DXルーム体験

60分

予約

- 建設分野におけるDX技術や各種シミュレータ等をどなたでも体験できます。
- 1団体につき、最大8名までご利用いただけます。
- 中学生以下は、1名以上の引率者(18歳以上)をお願いいたします。
- 予約確定後に「利用予定人数」が変わる場合は、事前に連絡を頂きますようお願いいたします。
- 準備の都合により館内へのご案内は案内開始予定時刻の5分前以降となりますのでご了承ください。

<体験内容>

①VR体験/②UAVシミュレータ/③バックハウスシミュレータ/④遠隔現場体験/⑤除雪トラックシミュレータ/⑥3次元測量体験/⑦遠隔対応型バックホウ実演見学

※⑦遠隔対応型バックホウ実演見学は、オペレータの都合により実施できない場合があります。

※⑦遠隔対応型バックホウ実演見学の体験期間は4月～11月です。

※11月～12月は多くのご予約をいただいております。新規の受付は終了しております。

DXルーム体験のご予約に関するお問い合わせがございましたら、以下までお寄せください。

☎025-231-1281(代表)

全ての画像を見る

受付予約画面の体験内容等(イメージ)

日程選択

※日付、時間帯を複数選択することで一度に複数日付・時間を予約できます。

2026年1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

X 選択

受付予約画面の日程選択(イメージ)

6. マニュアルの作成

9. 事業内容・添付資料[特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、PIの方法 等)]

「DX体験」の一般開放にあたっては、受付から体験まで多岐にわたる作業が必要となった。このため、それぞれの作業について担当者が手法を立案し、各担当間で調整と改善を重ねることで運営手法を確立し、その内容をマニュアルとして記録・整理した。これらにより、業務の効率化と「DX体験」の継続的な取り組みを目指した。

(1)運営マニュアルの作成

DXルームの運営を効率的かつ継続的に行うためには、スタッフ間で運営ルールや手順を共有し、共通認識を持つことが重要である。そこで、受付フロー、当日のタイムライン、やることリスト、人員配置動線、広報記録作成方法、DXセンター入退室手順などの内容を盛り込んだ「DX体験運営マニュアル」を作成した。

(2)体験指導用マニュアルの作成

日々の運営を通じてスタッフが蓄積してきた知見をもとに、誰でも理解しやすく、現場ですぐに活用できる「DX体験指導用マニュアル」を作成した。



DX 体験運営マニュアル



DX 体験指導用マニュアル

7. 秀でた成果

「DX体験」には、令和6年3月の開所以来、国土交通省ほか行政機関職員、民間企業、大学生、高校生から未就学児まで、インフラ分野に関わる方々だけでなく一般の方々にも多数ご来場いただき、各種会議や研修、工事安全対策協議会、学校の総合学習などの場でも活用され、令和7年10月には来場者数が1,000名を突破した。

来場者アンケートでは、90%を超える方から「体験・見学で土木の仕事に対するイメージが向上した」との回答を得たほか、「土木職の難しさを知ったと同時にありがたさを感じた」、「(遠隔操縦式バックホウ実演見学にて)離れた場所から操作できる事は、災害時に有用だと感じた」等の感想もいただいております、公共事業への理解・信頼の向上につながった。

また、高校生のアンケートでは「今回の体験も踏まえて、建設関係で働くことに興味を持った」、「様々な技術が集まって人々の暮らしを支えている」、「建設業がすごく楽しくて働きたいと思いました」等の感想をいただき、建設業界で働く意義を感じてもらえ、担い手確保の課題に大きく貢献した。

8. まとめ

「北陸インフラDX人材育成センター」は、インフラ分野におけるDX推進を担う人材の育成を目的に開所し、この中核的な取り組みである「DX体験」は、建設分野のDX技術に気軽に触れ、関心を持ってもらう「入り口」としての役割を果たしている。

北陸技術事務所では、北陸インフラDX人材育成センター開所にあわせ、次に示す新しい試みに取り組んできた。

- ・“大部分の機材を遠隔地に移設し期間限定で運営する「出張 DX ルーム」”の開催
- ・担い手確保に向け、“高校生向けにDX体験と災害対策機械見学をセット”で開催
- ・“オンライン受付システムの導入”による手続きの効率化とサービス向上
- ・業務の効率化と継続性を確保するための“運営マニュアル、体験指導用マニュアル”の作成

今後も、建設業界の方のみならず、将来の建設現場を支える幅広い世代の方々に、DX技術への理解と親しみを深めてもらうことを通じて、インフラDX人材の育成と建設業界の担い手確保につなげることを目指しており、「DX体験」の内容をバージョンアップさせながら、より魅力的で実効性のあるプログラムづくりと運営に取り組んでいく。